

(様式5号)

動物実験の実施状況 (平成29年度)

1. 動物実験の実施件数						実施件数合計 35 件		
大中哺乳類			鳥類			その他		
動物種	件数	頭羽数	動物種	件数	頭羽数	動物種	件数	頭羽数
ウシ	22	8,008	ニワトリ	6	2,554			
ブタ	7	176						
ヤギ	0							
ヒツジ	0							
ウマ	0							

2. 動物実験の主な内容

[ウシ]

- 「乳用牛の繁殖性に影響を及ぼす遺伝子解析」及び「肉用牛の改良形質に関する遺伝子解析とその実用化」
⇒DNA収集のため採血し、乳用牛は繁殖性について遺伝子解析情報との関連性を調査し、肉用牛は理化学特性データ等に関する遺伝子多型を調査した。(本所(改良技術課))
- 「次世代型ロボットによる視覚・体内から捉える飼養管理高度化システムの開発～搾乳ロボット及びセンシング技術の活用による個体情報高度活用システムの開発に向けて～」
⇒搾乳牛について、データ蓄積のための乳汁採取及び採血しBCS等を測定した。(新冠牧場)
- 「酪農生産基盤強化に向けた個体別哺乳ロボットと飼養管理データの高度活用による乳用子牛等の精密哺乳・哺乳システムの開発・普及」
⇒供試する子牛及び母牛について、飼養管理データを収集するために採血及び体重測定並びに哺乳量等を測定した。(岩手牧場)
- 「中山間地域における放牧等を活用した耕畜複合による収益向上と、それを支える乳肉共同経営による総合的なシステムの構築」
⇒黒毛和種繁殖牛の生産性向上のため、供試牛の体重測定、採血及び代謝プロファイルテストを行なった。(鳥取牧場)
- 「黒毛和種における短期肥育技術等の開発」
⇒短期肥育技術の開発のため、肥育牛の体重体型測定、胸最長筋の画像撮影及び採血を行い、肥育後はと畜してサンプル採取した。育成牛は、発育調査を行なった。(本所(管理課))
- 「牛慢性消耗性疾患の早期発見および防除技術の開発」
⇒DNA収集又は血清収集のため、供試牛から採糞又は採血した。(本所(生産衛生課))
- 「平成29年度耳標のフィールド(装着)試験」及び「平成30年度家畜個体識別システム定着化事業に係る耳標のフィールド試験」
⇒供試牛にサンプル耳標を装着し、脱落や破損を調査した。(新冠牧場、十勝牧場、奥羽牧場、鳥取牧場、宮崎牧場、本所(管理課))

[ブタ]

- 「超低温保存胚の子宮体部非外科的移植を利用した生産農家への低リスク低コストな高能力種豚導入実証」

⇒生産現場でも利用可能なガラス化胚の融解方法を調査するため、過剰排卵処理後に外科的に採卵し胚を生産する。簡便かつ確実に胚の非外科的移植を行うため、外科的及び非外科的移植器具を用いて移植し受胎・分娩成績を調査した。
(本所(管理課))

○「『国産豚肉差別化のための「おいしさ」の評価指標と育種改良技術及び飼養管理技術の開発』うち豚における肉質及び官能特性の遺伝的能力評価指標の開発」

⇒DNA収集のために採血し、産肉能力について遺伝子多型を調査した。(茨城牧場、宮崎牧場)

[ニワトリ]

○「鶏の改良形質に関する遺伝子解析とその実用化」及び「国際化の進展に対応した国産鶏種(卵用鶏)の開発及び普及促進(ゲノム情報を利用した育種技術の開発)」

⇒DNA収集のために採血し、遺伝子型を解析する産肉性・産卵性能等を調査した。(本所(改良技術課)、岡崎牧場、兵庫牧場)

平成 2 9 年度 動物実験に関する自己点検及び評価報告

動物実験委員会

1. 規程等

- ☒ ア 動物実験等法令及び基本指針に基づいた規程等が定められている。
☐ イ 規程等は定められているが、改善すべき点がある。

① 改善を要する点

② 改善の方針及び時期等

2. 動物実験委員会

- ☒ ア 動物実験実施規程に基づいた動物実験委員会が設置されている。
☐ イ 動物実験委員会は設置されているが、改善すべき点がある。

① 改善を要する点

② 改善の方針及び時期等

3. 施設等の維持管理

- ☒ ア 動物実験実施規程に基づき施設等は適切に維持管理されている。
☐ イ 施設等の維持管理に問題がある。

① 問題点

② 改善の方針及び時期等

4. 動物実験計画の審査及び実施

- ☒ ア 動物実験計画は、動物実験実施規程に基づき適切に審査、実施されている。
☐ イ 動物実験計画の審査、実施に関して問題がある。

① 問題点

② 改善の方針及び時期等

5. 動物実験実施報告書

- ☒ ア 動物実験実施報告書の実施結果は適切に理事長に報告されている。
☒ イ 動物実験実施報告書の実施結果の報告に関して問題がある。

① 問題点

供用動物の個体数について、年度内に供する個体数の記載でないものがあった。
また、個体数が増減したことについての理由が記述されていないものがあった。

③ 改善の方針及び時期等

年度内に供する個体数を記載するよう指導した。
また、変更理由等を事前確認して動物実験管理者及び実施者に記述の追加を指示した上で理事長に報告した。

6. 実験動物状況報告書

- ☒ ア 実験動物状況報告書は理事長に報告されている。
☐ イ 実験動物状況報告書に関して問題がある。

① 問題点

② 改善の方針及び時期等

7. 実験動物の健康及び安全の保持

- ☒ ア 飼養保管や輸送において、動物実験実施規程に基づき実験動物の健康・安全保持の措置が適切に行われている。
☐ イ 飼養保管や輸送において、実験動物の健康・安全保持に関して問題がある。

① 問題点

② 改善の方針及び時期等

8. 生活環境の保全

- ☒ ア 動物実験実施規程に基づき施設等及びその周辺の生活環境の保全に努めている。
☐ イ 施設等及びその周辺の生活環境の保全に関し問題がある。

① 問題点

② 改善の方針及び時期等

9. 人への危害・環境の保全上の問題の防止

- ☒ ア 動物実験実施規程に基づき人への危害・環境の保全上の問題が適切に防止されている。
☐ イ 人への危害・環境の保全上の問題の防止に関し問題がある。

① 問題点

② 改善の方針及び時期等

10. 地震・火事等の緊急時の対応

- ☒ ア 緊急事態に備えた措置に関する計画が定められ、緊急時の対応に問題はない。
☐ イ 緊急事態に対する備え、対応に関して問題がある。

① 問題点
② 改善の方針及び時期等

11. 教育訓練

- ☒ ア 動物実験実施規程に基づいて、教育訓練が実施されている。
☐ イ 教育訓練は実施されているが、問題がある。

① 問題点
② 改善の方針及び時期等

- ☐ ウ 必要な教育訓練が実施されていない。

○実施の方針及び予定等

- ☐ エ 当該年度には、教育訓練が必要な者はいなかったため、実施せず。

備考 1) 該当する評価結果の□に✓印を記入すること。

2) 評価結果が「イ」又は「ウ」に該当した場合は、当該評価結果の下欄に表示している事項について、その内容を記載すること。